

第1 刑法犯の特征的傾向

平成14年上半期の重要犯罪（殺人、強盗、放火、強姦の凶悪犯に略取・誘拐、強制わいせつを加えたものをいう。以下同じ。）の認知件数は9,715件で、前年同期に比べ330件（3.5%）増加している。検挙件数は5,102件、検挙人員は4,749人で、前年同期に比べ、検挙件数は7件（0.1%）減少しているものの、検挙人員は203人（4.5%）増加している。検挙率は52.5%で、前年同期に比べ1.9ポイント低下している。

重要窃盗犯（窃盗犯のうち、侵入盗、自動車盗、ひったくり、すりをいう。以下同じ。）の認知件数は22万9,743件で、前年同期に比べ1万9,100件（9.1%）増加している。検挙件数は5万8,606件、検挙人員は1万853人で、前年同期に比べそれぞれ、2,199件（3.9%）、317人（3.0%）増加している。検挙率は25.5%で、前年同期に比べ1.3ポイント低下している。

また、刑法犯の認知件数は135万1,727件で、前年同期に比べ6万3,498件（4.9%）増加しており、検挙件数は27万1,460件、検挙人員は16万2,390人で、前年同期に比べそれぞれ、2万6,442件（10.8%）、1万4,663人（9.9%）増加している。検挙率は20.1%で、前年同期に比べ1.1ポイント上昇している。

1 重要犯罪

(1) 重要犯罪の認知及び検挙状況

ア 認知状況

平成14年上半期の重要犯罪の認知件数は9,715件で、前年同期に比べ330件（3.5%）増加している。罪種別にみると、前年同期に比べ、殺人は27件（4.3%）、強盗は265件（9.2%）、強姦は37件（3.9%）、強制わいせつは50件（1.3%）それぞれ増加しているが、放火は32件（3.4%）、略取・誘拐は17件（15.5%）減少している。（図表1 - 1、2）。

イ 検挙状況

平成14年上半期の重要犯罪の検挙件数は5,102件、検挙人員は4,749人で、前年同期に比べ、検挙件数は7件（0.1%）減少しているものの、検挙人員は203人（4.5%）増加している。罪種別にみると、検挙件数では、殺人、強盗、強姦が増加し、放火、略取・誘拐、強制わいせつが減少しており、検挙人員では、殺人、強盗、放火、強姦が増加し、略取・誘拐と強制わいせつが減少している。

重要犯罪の検挙率は52.5%で、前年同期に比べ1.9ポイント低下している（図表1 - 1、2）。

図表1 - 1 重要犯罪の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
				(1～6月)		(1～6月)
認知件数	12,725件	14,682	18,281	21,530	9,385	9,715
検挙件数	10,700件	10,491	11,049	11,418	5,109	5,102
検挙人員	8,980人	9,307	9,954	9,905	4,546	4,749
検挙率(%)	84.1%	71.5	60.4	53.0	54.4	52.5

図表 1 - 2 重要犯罪罪種別認知・検挙状況の比較

区 分		年 次	平 13 (1~6月)	平 14 (1~6月)	増 減	
					件数・人員	率 (%)
認 知 件 数	総 数		9,385件	9,715件	+ 330	+ 3.5
	殺 人		629	656	+ 27	+ 4.3
	強 盗		2,890	3,155	+ 265	+ 9.2
	放 火		935	903	- 32	- 3.4
	強 姦		937	974	+ 37	+ 3.9
	略 取・誘 拐		110	93	- 17	- 15.5
	強 制わいせつ		3,884	3,934	+ 50	+ 1.3
検 挙 件 数	総 数		5,109件	5,102件	- 7	- 0.1
	殺 人		588	620	+ 32	+ 5.4
	強 盗		1,451	1,727	+ 276	+ 19.0
	放 火		760	628	- 132	- 17.4
	強 姦		601	607	+ 6	+ 1.0
	略 取・誘 拐		95	80	- 15	- 15.8
	強 制わいせつ		1,614	1,440	- 174	- 10.8
検 挙 人 員	総 数		4,546人	4,749人	+ 203	+ 4.5
	殺 人		609	668	+ 59	+ 9.7
	強 盗		1,898	2,023	+ 125	+ 6.6
	放 火		397	432	+ 35	+ 8.8
	強 姦		557	574	+ 17	+ 3.1
	略 取・誘 拐		69	67	- 2	- 2.9
	強 制わいせつ		1,016	985	- 31	- 3.1
検 挙 率	総 数		54.4%	52.5%	- 1.9 ポイント	
	殺 人		93.5	94.5	+ 1.0	
	強 盗		50.2	54.7	+ 4.5	
	放 火		81.3	69.5	- 11.8	
	強 姦		64.1	62.3	- 1.8	
	略 取・誘 拐		86.4	86.0	- 0.4	
	強 制わいせつ		41.6	36.6	- 5.0	

(2) 殺人事件の状況

平成14年上半期の殺人事件の認知件数は656件、検挙件数は620件、検挙人員は668人で、前年同期に比べ、認知件数は27件（4.3%）、検挙件数は32件（5.4%）、検挙人員は59人（9.7%）それぞれ増加している。検挙率は94.5%で、前年同期に比べ1.0ポイント上昇している（図表1-3）。

図表1-3 殺人事件の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
				(1~6月)		(1~6月)
認知件数	1,388件	1,265	1,391	1,340	629	656
検挙件数	1,356件	1,219	1,322	1,261	588	620
検挙人員	1,365人	1,313	1,416	1,334	609	668
検挙率(%)	97.7%	96.4	95.0	94.1	93.5	94.5

ア 捜査本部設置事件の状況

平成14年上半期の捜査第一課又は国際捜査担当課の主管する捜査本部設置事件（殺人、強盗殺人等殺人の絡む事件のうち刑事部長（警視庁においては組織犯罪対策本部長も含む）を捜査本部長とする捜査本部を設置した事件をいう。）は87件で、前年同期に比べ8件（10.1%）増加している。捜査本部設置事件の解決率は、75.9%で、前年同期に比べ2.5ポイント上昇している。また、平成14年上半期に捜査本部を設置した事件の解決率は57.5%で、前年同期に比べ0.5ポイント上昇している（図表1-4）。

また、14年上半期の暴力団犯罪捜査担当課の主管する一般市民等の被害に係る殺人の絡む捜査本部設置事件は8件で、解決件数は6件、解決率は75.0%となっている。

図表1-4 捜査本部設置・解決状況の推移

年次 区分	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14	暴力団犯罪捜査 担当課主管（注2）
				(1~6月)		(1~6月)	
設置件数	140件	135	152	165	79	87	8
解決件数	114件 (100)	106 (97)	102 (96)	122 (104)	58 (45)	66 (50)	6 (6)
解決率(%)	81.4% (71.4)	78.5 (71.9)	67.1 (63.2)	73.9 (63.0)	73.4 (57.0)	75.9 (57.5)	75.0 (75.0)

注1：解決件数欄の（ ）内は、その年に捜査本部を設置した事件の解決件数と解決率を内数で示した。

注2：暴力団犯罪捜査担当課において設置したものを外数とした。

【事例1】消費者金融における強盗殺人・放火事件の検挙（青森）

平成13年5月8日、男(43)は、消費者金融において、所携のガソリンを店舗内にまいて金員を要求したが、これを拒否されたことから、同店舗に放火し、同店従業員5名を殺害、4名を負傷させた（3月4日検挙）。

【事例2】北方町における女性殺人・死体遺棄事件の検挙（佐賀）

平成元年1月27日、男(当時26)は、路上に停車中の車両内において、女性の首を絞めて殺害し、その死体を山林に遺棄した(6月11日検挙)。

【事例3】政治団体構成員等による男性殺人並びに死体損壊・遺棄事件（埼玉）

2月20日、政治団体構成員の男(29)他6名は、路上において、男性の首を絞めて殺害し、その死体を車両に放置した上、損壊・遺棄した(4月13日検挙)。

イ 保険金目的殺人事件

平成14年上半期の保険金目的殺人事件の検挙件数は6件で、前年同期に比べ4件増加している(図表1-5)。

図表1-5 保険金目的殺人事件の検挙件数の推移

区分	年次	平 9	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
						(1~6月)		(1~6月)
検 挙 件 数		4件	6	8	9	9	2	6

注：未遂を含む。

【事例1】安心院町における保険金目的殺人事件（大分）

1月31日、男(27)他2名は、知人を自己の身代わりとして殺害して生命保険金を詐取しようと企て、睡眠薬で熟睡させた同人を溺水させ殺害した(2月9日検挙)。

【事例2】元看護婦等による保険金目的連続殺人事件の検挙（福岡）

平成11年3月27日、元看護婦の女(42)他3名は、うち1名の夫を殺害して生命保険金を詐取しようと企て、同人を殺害し、更に平成10年1月24日、別の1名の夫を同様の目的で殺害するなどした(4月28日検挙)。

(3) 強盗事件の状況

平成14年上半期の強盗事件の認知件数は3,155件、検挙件数は1,727件、検挙人員は2,023人で、前年同期に比べ、認知件数は265件(9.2%)、検挙件数は276件(19.0%)、検挙人員は125人(6.6%)それぞれ増加している。検挙率は54.7%で、前年同期に比べ4.5ポイント上昇している(図表1-6)。

このうち、路上強盗事件の認知件数は1,309件で、前年同期に比べ151件(13.0%)増加している。また、路上強盗事件の検挙人員819人のうち、少年の検挙人員は554人と全体の67.6%を占め、前年同期に比べ46人(9.1%)増加しており、依然として検挙人員に占める少年の割合は高くなっている(図表1-7)。

また、銃器発砲を伴う強盗事件は2件発生しており、前年同期と同数である(図表1-8)。

図表 1 - 6 強盗事件の認知・検挙状況の推移

区 分 \ 年 次	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
				(1～6月)		
認 知 件 数	3,426件	4,237	5,173	6,393	2,890	3,155
検 挙 件 数	2,614件	2,813	2,941	3,115	1,451	1,727
検 挙 人 員	3,379人	3,762	3,797	4,096	1,898	2,023
検 挙 率 (%)	76.3%	66.4	56.9	48.7	50.2	54.7

図表 1 - 7 路上強盗事件の認知・検挙状況の推移

区 分 \ 年 次	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
				(1～6月)		
認 知 件 数	1,119件	1,495	2,070	2,509	1,158	1,309
検 挙 件 数	873件	925	930	968	471	550
検 挙 人 員	1,503人	1,609	1,645	1,658	765	819
うち少年 (割合)	1,098人 (73.1)	1,111 (69.0)	1,122 (68.2)	1,103 (66.5)	508 (66.4)	554 (67.6)

図表 1 - 8 対象機関別の銃器発砲を伴う強盗事件の認知件数の推移

区 分 \ 年 次	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
				(1～6月)		
金 融 機 関	2件	3	5	7	2	0
消 費 者 金 融	0	0	0	0	0	0
現 金 輸 送 車	3	4	3	2	0	0
質 屋	0	0	0	0	0	1
パ チ ン コ 店	0	0	1	0	0	0
パチンコ景品交換所	1	0	0	0	0	0
ゲ ー ム 喫 茶	0	0	1	0	0	0
カ ジ ノ ク ラ ブ	0	0	1	0	0	0
麻 雀 店	0	0	0	0	0	0
深 夜 ス ー パ ー	0	1	0	0	0	0
ス ー パ ー 事 務 所 等	2	0	1	0	0	0
レ ス ト ラ ン	0	0	0	0	0	0
路 上 強 盗 等	1	1	1	0	0	0
民 家 侵 入 強 盗	1	0	2	0	0	0
そ の 他	1	0	0	4	0	1
計	11	9	15	13	2	2

ア 金融機関対象強盗事件

平成14年上半期の金融機関対象強盗事件の認知件数は62件、検挙件数は58件で、前年同期に比べ、認知件数は34件（35.4%）、検挙件数は4件（6.5%）減少している。また、検挙率は93.5%で、前年同期に比べ28.9ポイント上昇している（図表1-9、10）。

図表1-9 金融機関対象強盗事件の認知・検挙状況の推移（ ）

区分	年次	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
					(1~6月)	(1~6月)	
認知件数		161件	120	135	229	96	62
検挙件数		117件	97	92	147	62	58
検挙率(%)		72.7%	80.8	68.1	64.2	64.6	93.5

警察庁刑事局捜査第一課に報告のあった件数

図表1-10 対象機関別認知・検挙状況の比較

区分	年次		平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
						(1~6月)	(1~6月)	
銀行	認知件数		33件	32	27	30	11	19
	検挙件数		30件	30	25	28	12	18
	検挙率(%)		90.9%	93.8	92.6	93.3	109.1	94.7
郵便局	認知件数		92	51	86	152	65	37
	検挙件数		60	44	52	87	37	31
	検挙率(%)		65.2	86.3	60.5	57.2	56.9	83.8
農協等	認知件数		12	11	7	13	4	2
	検挙件数		8	5	4	9	3	1
	検挙率(%)		66.7	45.5	57.1	69.2	75.0	50.0
信金等	認知件数		24	26	15	34	16	4
	検挙件数		19	18	11	23	10	8
	検挙率(%)		79.2	69.2	73.3	67.6	62.5	200.0

【事例】船橋市内の銀行における強盗事件（千葉）

5月8日、男(59)は、銀行において、対応した行員に果物ナイフを突き付けるなどして脅迫し、現金約5,000万円を強取した（同日検挙）。

イ 現金輸送車対象強盗事件

平成14年上半期の現金輸送車対象強盗事件の認知件数は2件、検挙件数は3件で、認知件数は前年同期と同数である（図表1-11）。

図表1-11 現金輸送車対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分	年次	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
					(1~6月)	(1~6月)	
認知件数		10件	12	8	9	2	2
検挙件数		12件	4	2	4	0	3
検挙率(%)		120.0%	33.3	25.0	44.4	0	150.0

ウ 深夜スーパーマーケット対象強盗事件

平成14年上半期の深夜スーパーマーケット対象強盗事件（注）の認知件数は225件、検挙件数は118件で、前年同期に比べ、認知件数は9件（3.8%）減少し、検挙件数は42件（55.3%）増加している。また検挙率は52.4%で、前年同期に比べ、19.9ポイント上昇している（図表1-12）。

（注）深夜スーパーマーケット対象強盗事件とは、午後10時から翌日午前7時までの間に営業している、コンビニエンスストア等のスーパーマーケットの売上金等を目的として敢行された強盗事件をいう。

図表1-12 深夜スーパーマーケット対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分	年次	平10	平11	平12	平13		平14
					(1~6月)		(1~6月)
認知件数		308件	340	394	527	234	225
検挙件数		149件	173	188	163	76	118
検挙率(%)		48.4%	50.9	47.7	30.9	32.5	52.4

【事例】ブラジル人グループによる深夜スーパーマーケット対象連続強盗事件（愛知・三重・滋賀・岐阜）

2月5日から4月20日までの間、ブラジル人の男(20)ほか数名は、4県下10数店の深夜スーパーマーケットにおいて、金属バット等により店員を脅迫し、現金合計約1千万円を強取した（4月22日検挙）。

（4）略取・誘拐事件の状況

ア 身の代金目的略取・誘拐事件

平成14年上半期の身の代金目的略取・誘拐事件の認知件数は5件、検挙件数は5件、検挙人員は15人となっている（図表1-13）。

図表1-13 身の代金目的略取・誘拐事件の認知・検挙状況の推移

区分	年次	平10	平11	平12	平13		平14
					(1~6月)		(1~6月)
認知件数		8件	10	11	10	6	5
検挙件数		8件	9	12	10	6	5
検挙人員		22人	24	23	24	11	15

【事例1】高根沢町における中国人女性対象身の代金目的略取等事件（栃木）

4月24日、中国人の男(22)と韓国人の男(30)は、中国人女性をその勤務先から車で連れ去り、同女の姉に対し身の代金を要求した（5月6日検挙）。

【事例2】足立区における中国人男児対象身の代金目的拐取等事件（警視庁）

6月6日、中国人の女(25)らは、自宅付近で遊んでいた中国人男児を誘い出して車で連れ去り、両親に対して身の代金を要求した（6月8日検挙）。

イ 幼児等対象略取・誘拐事件

平成14年上半期の幼児等(年齢13歳未満の者をいう。以下同じ。)対象略取・誘拐事件の認知件数は16件で、いずれも被疑者を検挙して被拐取者を救出している(図表1-14)。

図表1-14 幼児等対象略取・誘拐事件の認知・検挙状況の推移

区分	年次	平10	平11	平12	平13		平14
					(1~6月)	(1~6月)	
認知件数		25件	23	33	25	11	16
検挙件数		24件	23	34	24	11	16
検挙人員		24人	24	36	25	11	22

【事例】 糸魚川市における幼児略取等事件(新潟)

6月4日、男(20)は、知人の女性の居宅から同女の妹を車で連れ去った(6月5日検挙)。

(5) 性犯罪の状況

平成14年上半期の強姦の認知件数は974件、強制わいせつの認知件数は3,934件で、前年同期に比べ、強姦が37件(3.9%)、強制わいせつが50件(1.3%)それぞれ増加している。

一方、強姦の検挙件数は607件、強制わいせつの検挙件数は1,440件で、前年同期に比べ、強姦は6件(1.0%)増加しているが、強制わいせつは174件(10.8%)減少している。また、強姦の検挙人員は574人、強制わいせつの検挙人員は985人で、前年同期に比べ、強姦は17人(3.1%)増加しているが、強制わいせつは31人(3.1%)減少している(図表1-15)。

図表1-15 強姦、強制わいせつの認知・検挙状況の推移

区分	年次	平10	平11	平12	平13		平14
					(1~6月)	(1~6月)	
強姦	認知件数	1,873件	1,857	2,260	2,228	937	974
	検挙件数	1,652件	1,369	1,540	1,404	601	607
	検挙人員	1,512人	1,392	1,486	1,277	557	574
強制わいせつ	認知件数	4,251件	5,346	7,412	9,326	3,884	3,934
	検挙件数	3,498件	3,388	3,602	3,887	1,614	1,440
	検挙人員	1,890人	1,926	2,286	2,236	1,016	985

【事例】 単身者を対象とする連続強姦等事件の検挙(警視庁・千葉)

平成13年7月、男(38)は、マンションに侵入し、在室中の女性を脅迫した上、強姦した。さらに、被疑者は、同様の手口で強姦等数件を敢行していた(3月19日検挙)。

(6) 配偶者からの暴力事件

平成14年上半期の配偶者（内縁関係にある者を含む。）からの暴力についてみると、殺人、傷害及び暴行の検挙件数は785件で、前年同期に比べ、137件（21.1%）増加している。このうち、夫から妻（内縁関係にある者を含む。）への暴力については、全体の91.8%を占めている。（図表1 - 16）。

図表1 - 16 配偶者からの殺人、傷害並びに暴行事件の検挙状況の推移

区 分	年 次	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
					(1～6月)	(1～6月)
殺 人		189件	170	197	191	97
	うち夫から妻	129	105	134	116	60
傷 害		295	403	888	1,097	589
	うち夫から妻	273	375	838	1,065	563
暴 行		35	36	127	156	99
	うち夫から妻	33	36	124	152	98
合 計		519	609	1,212	1,444	785
	うち夫から妻	435	516	1,096	1,333	721